

切り絵作家

小菅 績憲

『折尾の町』

千葉から北九州に来て早いものでもう7年になる。初めて新幹線で小倉で降り、鹿児島本線で折尾の駅に立ったのが私の北九州ライフの第一歩だった。

東京の下町育ちの私には折尾の町が何とも懐かしい様子で、子供の頃に戻った感覚を今でも鮮明に覚えている。買い物をする商店がいまだに市場などと書かれているとおもわず顔がほころぶ。その光景はまさに30年前の東京そのものだからだ。

数年前から折尾駅周辺の再開発の話が盛り上がり、にわか騒がしくなってきた。駅舎も保存と新築派にわかれて、署名運動やら折衷案、見直し論など入り乱れてもう約3年が過ぎた。

再開発の起工式も開催され、そこ

で見た折尾駅周辺のイラストは今とは似つかぬ程の近代的な街並みで、私にはあまりピンとこなかった。おそらくは折尾の町らしさがそぎ落とされた機能一辺倒のどこにでもある町になるような気がしたからだろう。

「お年寄りに優しいまち」、「バリアフリー」いろいろな優先すべきこともあるだろう。

しかし、セキュリティがらめの新築マンション、個性のない一戸建て、それらからは住人の人となりがまったく見えてこない。どこでもその町らしさがあるはず。

願わくば、折尾は百万都市北九州市の下町代表として、その最後の砦となつて欲しいと思う。

昨年あたりから、折尾に来るたびに再開発の鈍音高くどこもかしこも更地と化してゆく。

思わず目をそむけたくなくなるが、この先折尾がどう変わっていくのか。一度は住人でもあった私もそのひとりとして見届けたいものである。



こすげのりかず

数年前より私も「学園&地域交流ネットワーク」というグループと関わり、折尾の町の活性化に真剣に取り組む人たちに接する機会が多い。これからの折尾の町づくりを彼らに託したい。

また、情報交換に駅前にある「ゆめ広場」を積極的に活用されたい。

お知らせ

小菅氏の作品は「学園&地域交流ネットワーク」で取扱っています。

『折尾神楽』の、躍動感溢れる舞に感動し作品を仕立てました
(当冊子掲載の折尾神楽4枚セット 500円)

売上は、「交流拠点・ゆめ広場」の運営資金になりますので
ご協力をお願い申し上げます。

小菅 績憲(こすげ・のりかず)
切り絵工房「かみきりむし」主宰

- 1968年 東京都墨田区生まれ
- 1993年 米国の大学の写真学科を卒業
- 2000年 全国切り絵コンクール審査員特別賞受賞。
ほか公募展での入賞・入選多数
- 2001年 千葉県市川市で個展開催
- 2002年 北九州市に移住。九州共立大学市民講師
市民センターなどで「切り絵教室」を開催